

株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。ここに第122期第3四半期（平成27年4月1日から平成27年12月31日まで）の営業概況をご報告申し上げます。

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、米国は回復が続き、欧州も持ち直しており、全体として緩やかに回復したものの、中国及び新興国においては景気減速が強まりました。わが国経済は、企業収益や雇用環境の改善等により、緩やかな回復基調で推移したものの、個人消費や鉱工業生産等に弱い動きが続き、回復の踊り場感が見られました。

このような状況下、当社グループは、グローバルでの“成長”と高収益体質への“変革”を基本方針とした中期連結経営計画「Growth & Change 2015」を推進してまいりました。その一環として、工業用ファスナーの生産子会社であるトピーファスナー・メキシコS.A. DE C.V.（メキシコ サンルイスポトシ州）の工場建設を開始いたしました。また、鋼材の適正な販売価格の維持を図るとともに、需要に応じた生産体制の構築や生産性の向上、省エネ等のコスト改善、さらに、中国建機部品事業及び鉱山用ホイール事業の再建に取り組んでまいりました。

今後のわが国経済は、堅調な企業収益や政府の経済対策等により、緩やかに回復していくと期待されます。一方では、世界経済について、中国や新興国経済の景気減速、米国の金融政策正常化による影響等の不安材料があり、当社グループを取り巻く事業環境は予断を許さない状況が継続するものと思われまます。

このような経営環境下、当社グループは、中期連結経営計画「Growth & Change 2015」を推進する中で、成長が見込まれる海外市場に対して積極的に事業展開を図るとともに、国内のモノづくり基盤を強固なものとする事で、環境変化に強い事業構造を確立し、企業価値の一層の向上に努めてまいります。今後も、コーポレートメッセージ「One-piece Cycle」が表す「素材から製品までの一貫生産」の優位性を発揮し、トピー工業グループの一貫利益の追求とさらなる躍進を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年3月



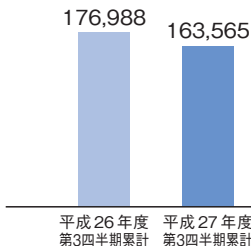
代表取締役社長

藤井 康雄

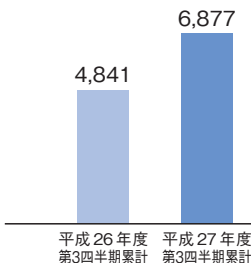
連結業績の推移

(単位：百万円)

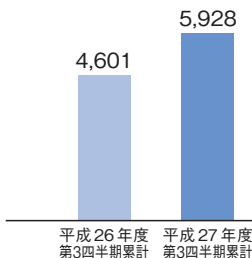
売上高



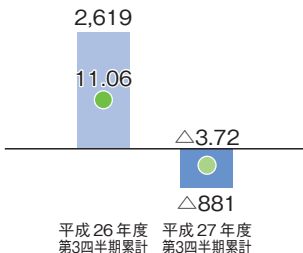
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する四半期純利益 (■) 1株当たり四半期純利益 (●) (円)



四半期連結貸借対照表 (要約)

(単位：百万円)

科目	平成26年度末	平成27年度 第3四半期末	科目	平成26年度末	平成27年度 第3四半期末
資産の部			負債の部		
流動資産	101,471	106,744	流動負債	75,241	77,600
固定資産	150,985	140,489	固定負債	69,274	66,083
有形固定資産	112,406	103,960	負債合計	144,515	143,684
無形固定資産	1,417	1,362	純資産の部		
投資その他の資産	37,161	35,165	株主資本	92,281	90,447
資産合計	252,456	247,234	その他の包括利益累計額	13,906	11,992
			非支配株主持分	1,753	1,109
			純資産合計	107,941	103,549
			負債純資産合計	252,456	247,234

セグメント別の営業概況

鉄鋼事業


売上高 48,944百万円 

営業利益 3,538百万円 

電炉業界は、主要市場である建設向け鋼材需要の減少により、粗鋼生産が前年同期を下回りました。また、鋼材市況が低迷する等、厳しい環境が続きました。

このような状況下、当社グループは、販売価格の下落や自動車・産業機械部品事業に供給する鋼材の需要低迷の影響を受けたものの、輸出の拡大等による数量の確保や適正な販売価格の維持を図るとともに、新製鋼工場の効果発現や徹底的なコストの削減に努めました。

自動車・産業機械部品事業

売上高 101,436百万円 

営業利益 3,521百万円 

自動車業界は、軽自動車税の引き上げに伴う販売低迷に加えて、トラックの輸出減少等により、国内生産台数は前年同期を下回りました。また、建設機械業界は、中国や東南アジア市場が一段と縮小するとともに、鉱山機械需要も引き続き低調に推移いたしました。

このような状況下、当社グループはあらゆる改善諸施策に継続して取り組んでまいりました。しかしながら、中国をはじめとする新興国の建設機械需要の低迷により、建設機械用足回り部品の販売数量が大幅に減少するとともに、ホイールの販売数量が減少した影響等を受けました。

発電事業

売上高 7,818百万円 

営業利益 1,769百万円 

電力供給先を特定規模電気事業者に変更し、事業計画に沿って安定した電力供給を續けてまいりました。

その他

売上高 5,364百万円 

営業利益 1,076百万円 

売上高 163,565百万円

営業利益 6,877百万円

鉄鋼事業

48,944百万円
29.9%

自動車・産業機械 部品事業

101,436百万円
62.0%

発電事業

7,818百万円
4.8%

その他

5,364百万円
3.3%

鉄鋼事業

3,538百万円
35.7%

自動車・産業機械 部品事業

3,521百万円
35.5%

発電事業

1,769百万円
17.9%

その他

1,076百万円
10.9%

※セグメント別の営業利益及び構成比は、調整額調整前の数値で表示しております（合計9,905百万円）。

連結業績の予想

	平成26年度 実績	平成27年度 予想
売上高	237,677百万円	230,000百万円
営業利益	6,422百万円	9,700百万円
経常利益	6,037百万円	8,800百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,360百万円	1,500百万円
1株当たり当期純利益	9.96円	6.33円

配当の状況

	平成26年度 実績	平成27年度 実績・予想
第2四半期末	1.00円	1.00円
期末	3.00円	5.00円
合計	4.00円	6.00円

※平成27年度の通期連結業績予想に関しましては、平成27年11月5日に修正しております。



敷地面積 約7.3万㎡ 従業員数 272名 (2015年12月末現在)

生産品目 乗用車用スチールホイール

中国の自動車市場は、2009年には世界最大の販売台数となり、その後日米自動車市場の合計を上回る規模に拡大しています。これに対応して、世界の自動車メーカーは現地生産化を進め、生産増強を図ってきました。

こうした中、当社はトピー工業グループの中国における乗用車用スチールホイールの生産拠点として、2003年に福建トピー汽車零件有限公司へ資本参加し、2010年には完全子会社化するとともに、日本のマザー工場よりノウハウを導入し、品質や生産性の向上、コスト削減に継続的に取り組んでまいりました。現在では、中国国内でトップクラスの生産性を誇るとともに、高品質の製品を安定供給するホイールメーカーとして、日系自動車メーカーをはじめとするお客様より、高い評価と厚い信頼を得ております。

トピー工業グループは、日本・中国・アメリカ・メキシコの生産拠点及び欧州の業務提携先を加えた、乗用車用スチールホイールのグローバルサプライヤーとして、さらにそのプレゼンスを高めてまいります。